

そなえる まつなみ

第11号



発行／松波自主防災会 千葉市中央区松波 2-22-35 松波会館内 2025年2月

●避難所トイレの悩み切実－能登半島地震で実態調査！

能登半島地震で、被災者が真っ先に困ったのがトイレ。そこで、石川県の町立富来(とぎ)病院のチームが被災者からアンケートを取りました。その結果、「屋外の仮設トイレも、高齢者が多いところではトイレまでの距離と段差が支障になった。避難者の年齢などから、トイレの場所や構造を考えて設置したほうがいい」「仮設トイレを送るだけでなく、簡易トイレの使い方を啓発してほしい」といった課題を指摘しました。内閣府は昨年末、避難所運営に関するガイドラインを改定、災害発生当初に 50 人に 1 個のトイレを備蓄するよう要請しましたー「東京新聞」2月12日



能登半島地震の現場

2月、東京都が仮設トイレ整備案を発表しました。追ってお伝えします。

●避難は1階より2階へ、荷物は持たない 関東大震災からの教え



○私はその時、2階の書斎で知人と話していた。ところが…
…家が波に弄ばれる小舟のように揺れだした。私はいきなり下へ駆けおりて行って、玄関の柱に捉(つか)まってうろろしている妻と、その妻の傍で泣き叫んでいる2人の子供とを引きあげるようにして2階へ連れてきた。……彼の安政2年10月3日の大地震をはじめ、地震の苦い経験を味わった古老から、たとえ2階は倒潰(とうかい)することがあっても圧死を免れることができると言うことを聞いていたり、古人の書いたものを見ていたからであった。

○私の妻は家財道具、別けても衣類を惜しがって、家へ入って持ち出すかまえをしようとするから、私は「着物が大事か、命が大事か」と云って決して家へ入らさなかった。……大地震の際に火事が起こるから、持ち出すには持ち出しても、人家稠密(ちゆうみつ)の所で、それで大混乱の中で、子供をかかえて大きな荷物なんか持って逃げられるものではない。体一つがやっと思つたからであった。私のそうした用心は、不幸にして杞憂(きゆう)に終わらずに、本所深川あたりでは、皆が持ち出してきた荷物に火が移って、それが自分の身を焼く薪(まき)となって焼死した者が無数であった(田中貢太郎「見聞録」『大震災の記録と文学』)。